

～下田のデキゴト～



10/1 明治安田生命保険寄附贈呈式

明治安田生命保険様から地元支援「私の地元応援募金」活動の一環として、53万円が寄贈されました。昨年に引き続き3回目の寄附で、感染拡大防止対策費用など有効に使わせていただきます。



10/13 下田市チームにスポーツドリンクを寄贈

「静岡県市町対抗駅競走大会」の下田市チームへ、ダイドービバレッジサービス株式会社様より、練習サポートのためのスポーツドリンク312本を寄贈いただきました。



10/16,17 全日本ライフセービング選手権

外浦海岸で、ジュニア、ユース、マスターズ世代の全日本ライフセービング選手権が開催されました。強風の吹く悪天候でしたが選手達はものともせず、日頃のトレーニングの成果を発揮していました。



10/9 新中学校へテイクオフ！

来年4月に統合される新中学校にサーフィン部が創設されることから、小学5・6年生を対象にしたサーフィン体験会が地元プロサーファーなどの協力により多々戸浜で開催され児童16人が参加しました。



10/15 太陽光で災害時にも活躍を

下田地区危険物安全協会様から下田地区消防組合に太陽光発電機2台が寄贈されました。災害時等で停電になった際にも太陽光で発電ができ、必需品となる携帯電話やパソコンの充電等に活用が期待されます。



10/25 法務大臣表彰を受賞

市人権擁護委員である佐々木一宏氏が、永年にわたり人権擁護活動に尽力されたとして、法務大臣表彰を受けられました。人権擁護委員は、人権相談や学校に向向いて人権教室などの活動を行っています。

10月の できごと

- 4日 赤い羽根共同募金街頭募金活動
- 7～18日 市長と語る会（計7回）
- 9～30日 市内各学校運動会
- 13日 寿大学 講座

- 24日 参議院静岡県選出議員補欠選挙
- 27日 むし歯予防教室（稲杵中学校）
- 30日 玉泉寺ロシア人墓地慰霊祭及び講演会
- 31日 第49回衆議院議員総選挙

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎02200



12月の予定

- 1日(水) めだかルーム 9時～11時30分
 - 2日(木) クリスマス会
 - 3日(金) クリスマス会 ※午後閉館(清掃・消毒)
 - 8日(水) あひるルーム 9時～11時30分
 - 13日(月) 体育館で遊ぼう 9時～11時
場所:市民スポーツセンター(体育館)
 - 15日(水) うさぎルーム 9時～11時30分
 - 17日(金) ふれあい遊び ※午後閉館(清掃・消毒)
 - 20日(月) 発育測定・育児相談 9時～11時
 - 22日(水) 誕生会
 - 27日(月)・28日(火) 閉館(大掃除)
 - 29日(水)～1/3(月) 年末年始休館
- ※予定は変更になる場合があります。
詳細は子育て支援センターまでお問い合わせください。



おでかけ広場



フロアの様子

秋の深まりを感じ、耳を澄ませば、秋の虫たちの大合唱が聞こえてきます。一年の中でも過ごしやすいこの時期、お散歩をしたり秋の自然に触れながら遊ぶのも楽しいですね。また、お子さんと一緒に絵本を見たり、本に触れる時間をつくってみてはいかがでしょうか。支援センターにも、絵本コーナーを設けています。

また、小さなお友達も増えました。遊びにきてくださいね。



めだかルーム



体育館で遊ぼう

こんにちは、市長です

11月3日 文化の日に寄せて

じつは私、本の虫です。子どもの頃から本が好きで、小説でも詩でも絵本も 歴史小説も評論も、マンガもシナリオ本ももう何でも食べます。あ、違う、読みます。

学生時代は、実験が多い理工系でしたが、本を読んでもいいなと思ったので、友達からは、「松木は国文専攻だ」などからかわれていました。本屋さんはパラダイスです。背表紙を眺めるだけで楽しくて、たちまち2時間くらい経ってしまう。絶版の本を探りに神田古書街に行くこともありました。あるとき、「弟子」というポール・ブール

ジェの小説(心理学の学生が、それを駆使してあごれの女の子を口説く、でもその結果、という仏文学)を読みたくて、何軒も探し回った末とうとう岩波文庫の古本を見つけ値段を見ると上下巻2冊で3000円と書いてある。当時のバイトの時給が450円。迷いましたが、本に金を惜しんじやダメだと自分に言い聞かせて買ったのを覚えていてます(今はインターネット

書いた人のメッセージが必ずしもそのまま読者に伝わるとは限りません。読み手の感覚が作り手のそれと食い違うことはよくあるようです。でも、それはそれで構わない。人それぞれの感じようでいいんだらうと思えます。そのときその場の環境で、各人各様です。

読書の秋です。皆さんも本屋さんや図書館に出かけてみませんか？

トのおかげで絶版の本も容易に見つけられるようになりました。

面白い本は時間を忘れて没頭してしまいます。電車の中で読んでいた小説が佳境になる。でも駅に着いて降りなくちゃいけない。で、降りたそのプラットホームで読み続けるといった具合です。

歳をとって改めて読むとずいぶん別の感じ方をすることもままあります。漱石の「坊ちゃん」や川端の「伊豆の踊子」などは、大人になって読み返してその深い意味に驚いたものです。

とはいえ、本というのは、書いた人のメッセージが必ずしもそのまま読者に伝わるとは限りません。読み手の感覚が作り手のそれと食い違うことはよくあるようです。でも、それはそれで構わない。人それぞれの感じようでいいんだらうと思えます。そのときその場の環境で、各人各様です。

